

令和4年度 第1回 川口市介護保険運営協議会議事録

1 開催日時

令和4年5月9日（月） 午後2時から午後3時5分

2 開催場所

市役所 第一本庁舎8階 第3・4委員会室

3 出席者（委員総数15名、出席委員13名）

【出席委員】吉田 英司会長、渡辺 隆志副会長、長谷 達也委員、
金子 裕子委員、小川 由美委員、山本 明美委員、梅田 成道委員、
高木 輝久委員、吉田 夢花委員、榎本 美知子委員、
木藤 由理子委員、長谷部 正子委員、町田 君子委員

【事務局並びに関係職員】

福祉部長、介護保険課長、長寿支援課長

【事務局補助】

介護保険課職員、長寿支援課職員

4 議事及び次第

- ・ 開 会
- ・ 会長挨拶
- ・ 議題

報告事項

- （1）介護保険事業特別会計予算・決算概要について
- （2）令和4年度 介護保険事業者向け事業について
- （3）介護保険サービス事業所数の推移について

審議事項

- （1）令和4年度 川口市介護保険施設等の整備方針（案）について

その他

- ・ 閉 会

5 議事録署名人 小川 由美委員・町田 君子委員

6 傍聴人の数 0人

7 会議の概要

会長挨拶の後、事務局により、本日の委員出席者数について報告が行われ、条例に基づき会長が議長となり議事が進行された。

会長の指名により、今回の議事録署名人は、小川 由美委員、町田 君子委員となった。

本日の議題のうち、審議事項（1）は非公開となった。

事務局による各議事の説明の後、次の質疑応答がなされた。

【質疑応答の概要】

「報告事項」

(1) 介護保険事業特別会計予算・決算概要について

資料1に基づき、事務局から説明が行われた。

議 長 報告事項(1)「介護保険事業特別会計予算・決算概要について」は以上でよろしいか。

各委員 異議なし。

「報告事項」

(2) 令和4年度 介護保険事業者向け事業について

資料2に基づき、事務局から説明が行われた。

委 員 介護に関する入門的研修について、資料に令和3年度実績の記載があるが、市民への周知についてはどのように行ったのか。

事務局 令和3年度は、市の広報掲示板へのポスターの掲示、チラシの配布、ラジオのFMかわぐちを活用したPRなどによる周知をした。
令和3年度の研修受講者に尋ねたところ、市の広報掲示板を見て応募したとの回答が多数を占めていた。
他の周知方法についても、今後検討していきたい。

委 員 訪問看護事業所は介護事業所との連携が重要であると考えている。訪問看護事業所数は増えてきているが、介護事業所数は市人口の規模に比して少ないと考えられ、人員の関係で連携が図りにくい現状もある。市民の方からの介護従事者の掘り起こしをお願いしたい。
広報のほか、インターネットなどはよく見られているとも聞いているので、引き続き周知を進めてほしい。

議 長 報告事項(2)「令和4年度 介護保険事業者向け事業について」は以上でよろしいか。

各委員 異議なし。

「報告事項」

(3) 介護保険サービス事業所数の推移について

資料3に基づき、事務局から説明が行われた。

委 員 事業所数の増減の主な理由としてはなにがあったか。

事務局 事業所数の休廃止の理由としては、他法人への事業譲渡などがある。近年では、新型コロナウイルス感染症感染拡大による経営悪化・利用者数の減

などの理由もある。

議長 報告事項（３）「介護保険サービス事業所数の推移について」は以上でよろしいか。

各委員 異議なし。

「審議事項」

（１）令和４年度 川口市介護保険施設等の整備方針（案）について

資料１に基づき、事務局から説明が行われた。

委員 病院は長期入院できないことから、身体状態が悪くてもやむを得ず在宅で面倒を見ざるを得ない方や、高齢者単身世帯・夫婦のみ世帯で、在宅生活が困難な方などを、安全に生活ができる施設へ入居させたいというニーズはいたるところにある。また、有料老人ホームが増えたとしても、既存施設への影響はそれほどでもないのではと考える。

事務局 特定施設入居者生活介護の入居率は８８％程度で低い数値ではない。今後とも毎年の実態調査により過剰とならない施設整備に努めて参りたい。

委員 近年、特別養護老人ホームは過剰な整備がなされた現実がある。県南地域は特に介護人材の確保ができない現状があり、（整備方針（案）に示された介護人材の確保については）適正な対応であると考えている。

委員 金銭的な理由で有料老人ホームから特別養護老人ホームへ入所待ちしているという話を聞く。一方で、特別養護老人ホームは原則要介護３以上でないと入所できないが、虐待・老々介護などの困難事例を抱えた、要介護１・２の方の特例入居という受け皿としての役割が増えてきている。そのような方々について、特定施設入居者生活介護においてもカバーしてもらえるのかなと考えている。

委員 特別養護老人ホームと、有料老人ホームと、サービス付き高齢者向け住宅は、５年後、１０年後、今後それぞれがどういった役割分担を果たしていくのか、より良い仕組みとなっていければと思う。

委員 今後、この整備方針というものは、毎年度策定する予定なのか。また、施設整備数の基本的な考え方はどのようになるのか。

事務局 第８期介護保険事業計画の最終年度である令和５年度についても策定する。次期第９期介護保険事業計画においては、３年間の全体計画を策定のうえで、年度ごとの整備方針を策定していく予定である。
各年度の施設整備数については、計画期間である３年間における整備総数から整備済数を差し引いた残数となる。

- 委員 「(2)整備にあたっての留意事項」に、介護ロボットに関する記載があるが、導入にあたって市として導入経費の補助などは考えているのか。
- 事務局 介護ロボットの導入については、県を主体とする補助制度があり、本市として上乗せの補助を行う予定はないが、介護ロボット導入事例集の紹介など、介護ロボットを導入しやすいような仕組みづくりを考えている。
- 議長 審議事項(1)「令和4年度 川口市介護保険施設等の整備方針(案)について」の質問・意見については以上でよろしいか。
- 各委員 異議なし。
- 議長 それでは、審議事項(1)の事務局案に賛成のかたは挙手をお願いします。
- 各委員 (挙手者全員)
- 議長 それでは、同審議事項については、事務局案可決とする。

「その他」

- 議長 「その他」として、各委員から意見・質問はあるか。
- 委員 自分が所属しているサークルでは、コロナ禍による活動中断の影響で、以前は元気だった高齢者の方が、相当の割合で認知度が低下したり、元気を失くしてしまっている状況である。
中高生などの若い世代に、現役の介護職員から経験談を伝えてもらえる機会を、市として提供することで将来の人材確保にもつながるのではないか。
- 委員 県事業になるが、介護の魅力PR隊として、介護施設の職員が中学校・高校へ出向き、2時間程度介護についての出前事業を実施していた。現在はコロナ禍により活動中断になってしまっているが、収束すれば再開されるものと考えている。
学校側の協力が必要であるが、学校側からも希望していただいております、若手職員が同世代の中高生に仕事の魅力を伝える機会となっている。
- 委員 現在、新型コロナウイルス感染症の抗原検査キットは各施設に配布されているものなのか。
- 委員 日本財団による無料のPCR検査があったのでこれを活用し、国等から配布された抗原検査キットは、発症した際の初期対応用として活用していた。日本財団のPCR検査が4月末で終了したので、施設として今後の対応方針を検討中である。

- 委員 在宅サービスにおいても、抗原検査キットは検査結果がすぐわかるので活用している。これまでの感染予防対策についても継続していきたい。市内の小中学校でも、デイサービスへの訪問授業や、医療職などについて考える機会を設けているようである。
- 委員 施設側からのニーズがあれば、抗原検査キットの入手方策について、各関係機関が協力して対応することも必要ではないか。
- 委員 抗原検査キットについては、検査精度がPCR検査と比較して低いことが認知されてきている。無料のPCR検査が終了してしまったとのことであるが、各施設の嘱託医ともご相談のうえ、施設の実情に合った体制づくりがよいのではと考えている。
- 委員 介護の人材不足に関して、市の社会福祉協議会でも福祉教育推進員として小学校からの依頼で高齢者疑似体験などの出前授業を行っている。子どもたちには、相手側の立場を実体験させることも有意義なことではないか。

【議事終了後】

事務局 次回の開催は7月を予定しているが、改めてご連絡する。

(会議終了 午後3時5分)